

Relationship between inferior vena cava collapse ratio measured by computed tomography scan and outcome in septic patients : A retrospective cohort study

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2024-06-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 下澤, 新太郎 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003559

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2752 号

Relationship between inferior vena cava collapse ratio measured by computed tomography scan and outcome in septic patients : A retrospective cohort study

コンピュータ断層撮影スキャンで測定された下大静脈虚脱比と敗血症患者の死亡率との関連

下澤 新太郎 (しもざわ しんたろう)

博士 (医学)

論文内容の要旨

この研究は、敗血症患者の予後指標としての下大静脈 (IVC) 虚脱比の予測有効性を検証することを目的とする。この目的を達成するために、東京の順天堂大学練馬病院で 2020 年 4 月 1 日から 2023 年 4 月 1 日までに敗血症と診断された全ての成人患者を対象とした後ろ向きコホート研究を実施した。患者登録後、基本データ、人口統計学的特性、臨床および検査結果の特性、および結果データが収集された。敗血症患者の CT スキャンはレジデントによって盲検でレビューされ、IVC 虚脱比は、腎静脈の直下で測定された前後径を最大横径で割ることによって決定した。

主な評価指標を敗血症患者の 30 日間の死亡率とした。総計 435 人の患者が登録され、396 人の患者については CT が適切に撮像された。敗血症患者全体の 30 日間の死亡率は 20.6%であった。非生存者は生存者と比較して有意に低い IVC 虚脱比を示した (0.40 対 0.53、 $p = 0.0001$)。交絡変数の調整後、多変量ロジスティック回帰分析によって IVC 虚脱比と 30 日間の死亡率との間に有意な関連が明らかとなった (オッズ比 = 0.16、信頼区間 : 0.03-0.86、 $p = 0.032$)。IVC 虚脱比の曲線下面積は 0.6397 であった。IVC 収縮率が 0.44 を下回ると、30 日間の死亡率に対する予測精度は 62%の感度と 69%の特異度を示した。

この研究は、CT による IVC 虚脱比の定量化が敗血症の単独の予後指標として機能する可能性があり、さらなる学術的な調査が必要である。これは敗血症患者の治療と管理において重要な意味を持ち、IVC 虚脱比を臨床的に評価することで予後改善につながる可能性がある。